

令和7年12月23日

報道機関各位

希少高山植物ヒダカソウの自生地への移植試験を開始

北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所の綱本良啓研究主任を代表とする研究チームは、希少高山植物ヒダカソウの自生地への移植試験を開始しました。**希少高山植物の栽培株を自生地へ移植する取り組みは国内ではほとんど例がなく、本試験の成果は、今後のヒダカソウ保全策を考える際に、重要な科学的根拠となることが期待されます。**

■ ヒダカソウ

キンポウゲ科ウメザキサバナオ属ヒダカソウ (*Callianthemum miyabeianum*) は、北海道様似町アポイ岳とその周辺の山塊のカンラン岩土壤にのみ生育する高山植物です。個体数が少なく分布域も限られることから、環境省レッドリストの絶滅危惧ⅠA類 (CR)、北海道レッドリストの絶滅危惧種 (Cr) に指定されているほか、北海道生物の多様性の保全等に関する条例に基づき、指定希少野生動植物種に指定され、生きている個体の採取又は損傷することが規制されています。

■ 生育状況の長期モニタリング

エネルギー・環境・地質研究所は、地元の様似町やアポイ岳ファンクラブと協力して、2003年からヒダカソウの主要な生育地で、生育状況のモニタリングを行ってきました。個体数は、2024年の時点で調査開始時の約30%まで減少しています。また、2020年以降は、全生育地の開花個体の合計が20個体以下と大変少なく、自然状態で種子による世代更新を行うことは困難な状況となっています。以上のようなヒダカソウの状況を考慮すると、効果的な保全策を講じなければ、ヒダカソウは近い将来に野生絶滅に至る可能性があるとの判断に至りました。

■ 移植試験の概要

- 栽培株*の自生地への移植がヒダカソウ個体群の回復や維持にもたらす影響を評価することを目的として、2025年10月8日に、開花可能なサイズまで成長したヒダカソウ栽培株30個体をアポイ岳の高山植物群落に移植しました。なお、移植株は、過去に実施された遺伝解析の結果に基づき、移植地点を含む一定の範囲から採取した個体に由来する株から選定しています。

*北海道大学植物園が栽培・増殖技術を確立し、現在同園と様似町により、数百個体が域外保全株として管理されている。

- 今後、移植株の生存率、開花・結実状況などをモニタリングしていく予定です。また、移植株に対する環境の影響を明らかにするために、地表面温度と土壌水分のモニタリングも開始しました。外来種の侵入や土壌の流出など移植地点の高山植物群落に悪影響が出ないように監視を続けていくことも必要です。

本試験は、北海道立総合研究機構が北海道からの委託を受けて行っている、令和7年度（2025年度）北海道希少野生動植物種調査等委託業務の一環として実施しています。

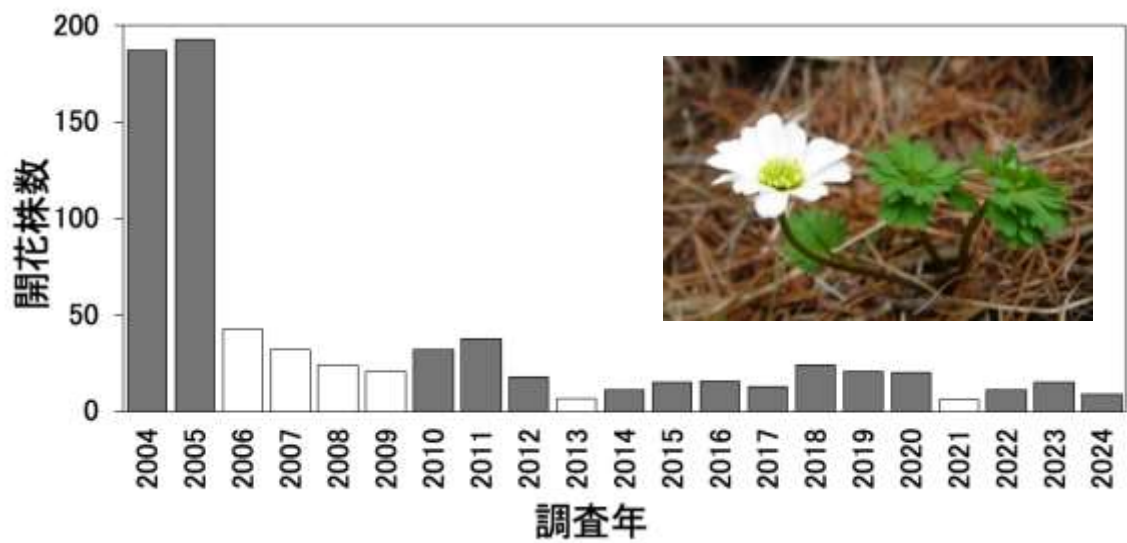
■ 同時配付先：道政記者クラブ、教育記者クラブに同時配付

詳しくはこちらへお問い合わせください。

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構（道総研）産業技術環境研究本部
エネルギー・環境・地質研究所 研究推進室 研究情報グループ（担当：小松）
電話 011-747-2427 Eメール eeg-koho@ml.hro.or.jp
ホームページ <https://www.hro.or.jp/eeg.html>

《参考図》

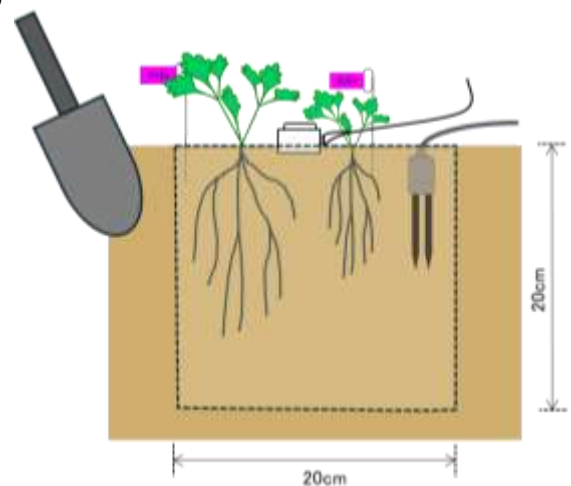
(A)



(B)



(C)



(D)



(A) 全生育地の開花株数の経年変化。ただし、棒が白色の年（2006～2009 年、2013 年、2021 年）は全生育地の調査を行っていない。(B) 移植に用いたヒダカソウ栽培株。(C) 移植方法の模式図。20 cm 程度土壌を掘り取り、地表温度や土壌水分のセンサーと共に、栽培株を 2 株ずつ移植した。(D) 移植直後の様子。